

【卒業式に向けた事前指導】での活用事例（小学校第6学年）

【活用した資料】

- 小学校版「心たくましく」 p.132～p.133 第三章 「㊟ よりよい学校をみんなで作ろう」

【学習指導要領に示されている道徳の内容】

- 4－（6）「先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。」

○ 学校のよさについて振り返る

運動会や学習発表会等の大きな行事を終えた二学期の中頃、あらためて学校のよさについて振り返り、卒業までの残された時間に自分たちに何ができるかを考えさせていくことにしました。そこで、『心たくましく』p.132「私たちの学校、自まんの学校」を読み聞かせ、下段の「自分の学校の自まんでできることや、ほこりに思っていることを書いてみましょう。」の欄に記入させました。全員に書いた内容を発表させて、あらためて学校のよさについて考えさせることができました。「鼓笛隊が伝統になっている。」、「六年生が下級生にととてもやさしい。」、「みんながととてもよくあいさつができる。」等、様々な意見が出され、次の学年にも受け継いでいってほしいという思いが高まっていきました。

○ 卒業までに学校をよりよくするために自分たちにできることを考える。

『心たくましく』p.133「大人になっても大切に思える学校に…受けつごう大切な校風」のこたばを読み聞かせた後、「卒業までの間に、学校をよりよくするために、何ができるだろう。」の欄に記入させました。そして、記入した内容を発表させ、どのようなことができるかについての話し合いを行いました。「自分たちの立派な姿を下級生に見せていくことがまず大切ではないか。」、「お手本として、これからもあいさつや委員会の仕事などをがんばっていききたい。」、「最高学年として、全校児童のみんなの前でしっかりと校歌を歌っていききたい。」、「最後に学校中をきれいに掃除したい。」、「お世話になった人たちに感謝の気持ちを伝えたい。」、「下級生に何かを残したい。」など、様々な意見が出されました。卒業に向けて、さらに愛校心を高めていくことができました。

大人になっても大切に思える学校に… 受けつごう 大切な校風

学校には、多くの先ばいたちが大切にしてきた すばらしい校風がある。
校風とは、学校をみんなで作ってあげてきた、 その学校らしさのこと。
その校風を、後は私たちにも伝えていくためには、
一人一人の熱い思いと、みんなで協力する心が必要だ。